

議題 北九州市立美術館運営評価について

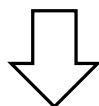
評価項目A: 資料収集・保存

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	目標どおり達成できている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的・目標・実績をめぐる達成経過がスムーズである。</li> <li>・ 目標どおり達成されている。</li> <li>・ コレクションの充実に向けて、年々施策の実施の着実度が増している。今回はとくに岡崎和郎展に出品された作品が20点ほど購入・寄贈されたことが、収集方針に適った収集としても、展示と収集、両様の活動の連携としても、大いに評価される。</li> <li>・ 保存修復も、所蔵品全体の把握、設備の改修に伴い大きく前進しており、高い評価に値する。</li> </ul>

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	妥当である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「目標どおり達成できた」と自己評価にあるが、数量的な視点よりも内容を考えれば、目標達成も内容の充実を伴っているとみなせる。「A」の自己評価は、むしろ抑制気味と思われる。</li> </ul>

③ 運営改善の提言	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特に今後改善すべき点は見出せないが、収集・保存の活動は、当然日々注意を払いつつ持続すべきものであるから、これからも怠りないことを期待する。また、修復費の十分な手当を望みたい。</li> <li>2 単年度の目標以外に中長期的な目標設定やそれらと短期(1年)目標との関連や、目標値等の修正があってもいいのではないかと。海外作家のコレクションも多い館なので、国外調査も継続的に数年に一度は行ってほしいところ。</li> <li>3 目標に対しての実績である結果(アウトプット)の評価については問題ないが、取り組んだ結果その成果(アウトカム)や課題についても明らかにして、次の改善につなげていくことが評価作業(PDCAのA)の重要な目的であるため、そのような観点から記述していただくことが望まれる。(例えば収蔵品のチェックの結果、修復の必要度がどのようなレベルにあるのかを分類、分析して、その後の修復改善のための契約や方策、必要金額等を検討するなど。)</li> <li>4 現在の収集方針について、どのような成果、課題、問題点があるのか、また作品や資料を収集するための「新たな収集方針」については、目標年次や方向性等についての検討状況について教示していただきたい。</li> </ol>



課題解決のために取り組むこと
<p>引き続き日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認するとともに、収集方針に基づき、当館の特性を伸ばしていきたい。</p>

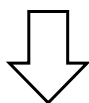
評価項目B: 調査研究・展示

外部評価

① 実績に対する評価	評価	理由
	1. 外部から見ると「A」以上の評価が妥当。 2. 自己評価「B」は妥当。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該年度は、福岡市美と共同でコレクション展を巡回させたことが特筆され、当館のコレクションの充実ぶりを広く知らしめられた。また「1930年協会展」開催に際しての他館との連携、森山安英展、青柳喜兵衛展の実現に向けた調査研究の努力など、大きな活動が目立っていた。</li> <li>・ 館内外での多種の活動がバランスよく行われている。</li> </ul>

② 自己評価の妥当性	妥当性	理由
	妥当である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査研究の件数、入場者数目標不達成のために、自己評価は「B」とあるが、後者は本館工事を原因とするものゆえ、目標の立て方自体に見込み違いがあったと思われる。研究公表件数は、学芸員数の不足も大きな理由と考えられる。しかし、添付資料を読み込む限り、目標の達成度は悪くない。数値目標の結果から「B」としたのであろうが、内容も考慮すれば控えめの自己評価である。</li> <li>・ 企画展等の充実についてのB評価については、目標数に届かなかったためとあるが、原因、要因が明確なので、B評価は目標数設定の問題ととらえるべきではないか。</li> <li>・ 美術館運営に定量的な評価は難しいことは承知しているが、1-②「青柳・森山展等自主企画展の開催に向けた調査」目標に対し、「調査を全国各地で行った」では、何をどういう風に行ったのか評価しようがない。記載方法に工夫を要す。2-③「学芸員が研究成果を1回以上公開する」目標に対し、発表件数が総数でしか記載されていないので、目標を達成したのか判断しようがない。</li> </ul>

③ 運営改善の提言	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ひとつの展覧会を実現するための学芸員の労力は大変に大きい。本館改修が終了したこれから、活動をさらに充実させていくために、学芸スタッフの人員増が行われることが望ましい。</li> <li>2 他美術館や文化施設との共同研究や企画、時間をかけた調査とその成果の多様な現場、媒体での発信をめぐって、次なる戦略を練ることも考えてはいかか。</li> <li>3 美術館は営利事業ではないので、収入&lt;支出となる事はやむを得ないが、今後、人口減が進むにつれ、税収減となると、美術・音楽・芸術関係の予算が削減される可能性が強いが、それを少しでもカバーする為に、                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・他美術館との連携を強化し、所蔵名品展の開催等は大いに進めていただきたい。</li> <li>・民間美術館との連携は難しいかもしれないが、出光美術館・いのちのたび博物館・下関市立美術館との共通パスポート等の発行を行い、美術愛好者の回遊性を高めてほしい。</li> </ul> </li> </ol>
-----------	--



課題解決のために取り組むこと
他館や多文化施設との連携には学芸スタッフの充実が必要不可欠であるため、適正な任用も含めて処遇改善に取り組みたい。 また、他文化施設とのさらなる連携を努めていきたい。

評価項目C:教育普及・学習支援

外部評価

	評価	理由
①実績に対する評価	参加者数の着実な増加は、評価に値する。 ただ、「たんけんパスポート」の発行枚数、利用者数の減少はやはり課題が大きい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小・中学校等と連携し、参加者数の目標(前年度以上)を達成したことは評価できる。特に、ミュージアム・ツアーや館内授業の参加者が増えている。</li> <li>2 ワークショップや講演会・ギャラリートークなどの教育普及プログラムを計24回開催し、目標の20回は達成できて良かった。</li> <li>3 教育普及、学習支援の目的からすれば、まずは美術館に足を運んでもらい、作品に触れることが重視されるべき。</li> <li>4 たんけんパスポートは、利用者が少ないように感じられるが、わりと定着している。(あるということが) ミュージアム・ツアーはとても良かった。今年度は全市の小学校3年生に参加してもらえるので、A+である。</li> <li>5 ワークショップの内容も充実してきており、今年度も期待できる。</li> </ol>

	妥当性	理由
②自己評価の妥当性	妥当である。 小・中学校と連携した学習プログラムの実施は、前年度以上となっていない事業もあるので、評定Bが妥当。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小・中学校と連携した学習プログラムについて、目標値自体の基準は決して高いとは言えない。例えば、北九州市内の小学生は47,600人ほどだが、美術館来館者は、たんけんパスポートの延べ人数で考えて全体のわずか2%に過ぎない。</li> <li>2 幅広い年代に応じたワークショップ等については、全体の参加数は前年度より減少している。また、「幅広い年代、年齢層を対象」とあるが、実際の参加者の年齢層は、資料では不明である。</li> </ol>

③運営改善の提言	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市民のより多くの子供たちに美術品に触れる機会を作る、ミュージアムツアーは可能性が大きい。今回は八幡東区と戸畑区のみでの試行実施だったが、できれば他区に広げていってほしい。</li> <li>2 たんけんパスポートの利用者が伸びていない。「利用促進を図る」と対策にあるが、具体策を示してほしい。</li> <li>3 「幅広い年齢層」が具体的に分かるデータをとる。それぞれの年代のニーズなどもアンケートで明らかにしてほしい。</li> <li>4 今年度から本格実施される3年生対象のミュージアム・ツアーの充実と実施状況の情報発信。 ・児童・生徒向けの館内案内や鑑賞の手引き、ワークシートなどの充実。 ・参加者への事後アンケートの実施等による質や内容についての成果の把握と発信。</li> <li>5 「たんけんパスポート」の利用者数増加に向けてのPR</li> <li>6 検証欄における課題、原因についての記述が欲しい。何が参加者増に結び付いたのか、特に評価の高かった授業、事業についての分析が欲しい。</li> <li>7 ワークショップの内容は面白いものであると思う。もっと、メディアを活用して広報していくと良いと思う。</li> </ol>
----------	---



課題解決のために取り組むこと
<p>ワークショップについては、より多くの方が参加できるよう引き続き内容の充実を図るとともに、積極的な広報を展開したい。</p> <p>また、ミュージアム・ツアー等の教育普及事業については、今後も力を入れるとともに、可能なものについては、アンケート調査を実施したい。</p>

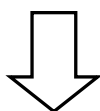
評価項目D:市民参画・連携

外部評価

① 実績 に対する 評価	評価	理由
	着実に実施している。	1 ボランティア活動の具体的な資料の内容が提示されていないので解りづらい。(他館との実績比等) 2 参加人数の記載やアンケート等があると、認知度や満足度の把握につながり、わかりやすいのではないかと思います。 3 他館調査については、複数あってもよかったのではないかと。また、学校・海外からの受け入れを視野に入れた調査の必要性が今後出てくるかなと思いました。

② 自己評価 の妥当性	妥当性	理由
	妥当である。	ボランティア活動の見直しのための他都市調査や制度の見直しの検討が行われている。 また福岡市美術館や芸術劇場、北九州市国際音楽祭などの連携・共同事業が着実に実施されている。

③ 運営改善 の提言	1 ボランティア活動への見直しと体制整備については、「具体的な資料を作成した」とされているが、他都市の調査結果(他都市との比較分析など)を含めて現在どのような検討状況にあるのか等について、教示していただきたい。 2 例年実施されているものについては、参加数や認知度の向上を期待します。同じ人々が参加しているのではなく、新たに関わる人の開拓ができているかどうか今後の評価につながっていくと考えます。
------------------	---



課題解決のために取り組むこと
他文化施設との連携については、参加人数の増、認知度の向上を図る企画を考えていきたい。 また、新たなボランティア制度の実施についても注力していきたい。

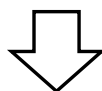
評価項目E: 広報・情報発信

外部評価

	評価	理由
①実績に対する評価	評価できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実績の多くが既存の手法による前例踏襲型の取り組みで、広報・情報発信を単眼的にとらえると、昨年と同じやり方をしていれば目標を達成しやすいとも言える。他の評価項目ともリンクさせて、前年踏襲で奏功する部分、不要な部分、新しく工夫をこらす部分などを精査できないか。</li> <li>2 休館もあるため、マスコミでの取り上げも前年対比87.9%となっている。今期は平成28年度の数がクリアできると良いと思います。</li> </ol>

	妥当性	理由
②自己評価の妥当性	妥当である。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 HPも見やすいし、お知らせコーナーは便利である。</li> <li>2 目標を数値化するなど、具体指標を示すことが必要。数値化できないケースも、より具体性を持った判断基準を示す。</li> <li>3 休館中である期間にあったことを考慮すると良いとは思いますが、まだ課題もあると思うので、概ね良いくらいが適切かと思います。</li> </ol>

③運営改善の提言	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 折角ツイートを設けたのであれば、書き込みも読めるようにすれば、アマチュアの素朴な感想が来場につながるのではなかろうか？</li> <li>2 展覧会特性にあわせたメディア活用(新聞、テレビ、サイト、SNS、OOH、リアルイベントなど)の工夫を。美術館自体、地域の魅力アップ。エリアのランドマークに。</li> <li>3 周りの方々に聞くと、まだまだ美術館で何をやっているか知らない方が大半です。SNSも掲載投稿するだけでなく、能動的な販促としていった方が周知には役立つと思います。</li> </ol>
----------	---



課題解決のために取り組むこと
<p>広報については、課題、費用対効果等も十分に考慮し、取り組んでいきたい。 展覧会の特性に応じた各年齢層への情報発信に努めていきたい。</p>